

4

万物 創造

1. 神の聖定が 実行された 結果は 何ですか。

神が、定め（御心）られ、実際に行動なさったことの結果は（使徒 4:28）創造と摂理です（詩 33:6-7, 9-11, 146:6-7、エレミヤ 10:2）。創造は、神は何もない所からすべてを造られたことです（創 1:1、へブル 11:3）。神はそのすべてのものを造る時、道具を使用したり、手段を用いたりしませんでした。ただ、ご自身の力ある御言葉によって、ご自身の喜ばれる聖定（御心）に従って造られました（詩 148-5）。

2. 創造は、ただ御父によってだけ できたのですか。

違います。御父が御子（息子）と聖霊と共にすべての万物を造りました。御子なるキリストは永遠の言葉であり、神の知恵です。御子なしで造られたのは一つもありません（ヨハネ 1:3）。キリストによって、そしてキリストのためにすべてのものが造られました（コロサイ 1:16）。聖霊は、水面の上に運航なさるようにすべてを捕らえ、形体があるようにされました（創 1:2）。従って、創造は、御父、御子、聖霊、つまり、三位の神のみわざです。

3. 創造にあって 神の栄光は どのように現れましたか。

神がすべてを造られた理由は、ご自身の栄光のためです（箴言 16:4）。神は何もない所から、ご自身の言葉だけですべてを造られたことで、ご自身の永遠の力と栄光を現しました（イザヤ 40:11、エレミヤ 51:15）。それによって神の無限なる知恵が知らされました（詩 104:24）。その創造なさったすべての被造物の上に神の善が現れています。神の善は、ご自身がすべてを完全に造り、秩序を保たれるところから知ることができます。また、神の無限なる権威が現れました。

4. 創造の教理は どのような用度が ありますか。

創造の教理は、まことの神である創造主と、この世にある偽りの神々、あるいは、偶像などと区別されます（イザヤ 45:7）。この世において、すべてを存在するようにされる方は、神以外にはありません。従って、創造の教理は、神に栄光を帰させます（詩 92:5）。さらに神が、安息日を制定なさった目的の中で一つは、被造物に、創造主・神を礼拝させようとのことです。創造の教理は、真実なる創造主・神を頼らせて、私たちに助けをくださる神を望みとさせます（1ペテロ 4:19）。

5. 神が 六日の間に 創造なさった 理由は何ですか。

神は、すべてのことを一瞬にして、そして、完全に創造することができました。それにもかかわらず、六日に渡って創造しました。これは、被造物の多様性と区分、そして卓越性を見せてくださるためでした。すべてを創造なさった

神の器用さと、その中に含まれている神の知恵を、私たちが詳しく知った上で神を賛美させるためです。また、六日間の創造は、私たちもこれを見習って六日間は労働をして、第七日（安息日、主日）には休ませようとする事です。これは、被造物たちが、神以外に、どのような原因や手段によって造られなかったことを見せられ、知るようになります。例えば、木や食物などは第三日に造られ、第四日には、太陽と月が造られました。つまり、太陽によって木や食物が出るのではないことを見せています。従って科学は、神の創造と、創造されたものを治めておられる神の無限なる知恵と摂理を見せてくれるのです。

6. 被造物たちはどのように 区別されますか。

見えるものと見えないものとの区別されます（コロサイ 1:16）。見えるものは、私たちの目で見ることができ、見えないものは、パウロが上って行った第三の天や、天使たちのようなものです。たとえ、創世記1章には、見えるものの創造について言及されていて、見えないものについての言及は後になって現れます。しかし創造の六日の中で、すべてが造られたのが確かです（詩 103:20、148:2、3）。神は見える世界と、見えない世界をすべて造られました。見えないものだからと言って、実体がないわけではなく、見えて、現れているものだけを造られたのではないということです。

7. み使いたちの 性質は どのようなですか。

み使いたちは理性的被造物として、完全に霊的な存在です。それで聖書では、「霊たち」（spirits）と呼びます。み使いを人と比べるなら、両方とも理性的被

造物ですが、人間は靈的でありながら、体を持っています。反面、み使いは生きている存在として、腐らないで、人目には通常的に見えません。神はみ使いたちを造られる時、人間より力と知恵と敏捷性があるように、素早い存在として造られました。目に見えなく、靈的で、理性的な存在であるみ使いたちが、人間に現れる時には、どのような姿をして現れるのかを、聖書を通して知ることができます。

8. 見えるものの創造から 私たちは何を 学ぶことができますか。

創世記1章と2章は、神が、この世をどのように造られたのか。その中を何で満たしたのかを宣言なさっています。神はすべてを、各々種類に従って造りました。すべてのものを神が見られ、非常に良かったのです。神はそれらについて名前を付与し、彼らの目的と用度について言及なさいました。神さまはそれらを創造なさる時、順序通りに造りました。先ず、被造物が居住できる場所を形成し、被造物がその中に居住するようにさせました。草は動物のために、光は生きて動く被造物のために造りました。そしてすべては人間のために造りました。このような目的に従って、被造物が造られる順序が定められました。木と草が生え、増加することによって動物も増加するようにさせました。ここで私たちは、秩序の神と、すべての被造物を保護する神を知ることができます。それゆえ私たちは、すべての思い煩いを神にゆだね、世の煩いによって私たちの心の中に、神の言葉が窒息されないようにすべきです (マタイ 13:22)。

9. 創造の第一の日から、六日までの 特徴は 何ですか。

第一日目に、神は光を創造しました。暗闇から光を創造なさったのは驚く神のみわざです（第二コリント4:6）。この時は、神が、太陽、また、月を造る以前のことです。つまり、太陽があつて、光があるのではないことを知ることができます。第二日目は、大空を造り、大空の上の水と、大空の下の水とを区別されました。第三日目は、水を一所に集め、乾いた所が現れるようにしました。そして地に草と種を生じる食物を生じさせました。これは、太陽と月を造る以前のことです。それゆえ、農夫が労苦して地に実がいっぱいになるではありません。神の力によって地が実を結ぶようになるのです。第四日目は、神は大きな光る物として太陽と月を造り、小さい物として星を造りました。これは、昼と夜を区別させ、季節と、日と、年をしるすようにさせました。第五日目には、魚と鳥とを造りました。第六日目は、地に獣、動物、家畜、地にはうものすべてと人間を造りました。

10. 創造教理と 進化論は どのように違いますか。

神に近づく者は、神がすべての万物を造られたことを信じなければなりません。これは科学的な証拠を持って、創造を信じるのではなく、聖霊の感動によって記された創造のみわざと内容を信じることです。私たちは自然の驚く秩序と、驚く規模を見ながら、創造主・神を賛美するようになります。これは信仰によって知るのです。信仰が前提です。

進化論も同じです。科学的な証拠を持っては、すべての万物が進化されたと言うのを明らかに出来ません。特に進化論が話す、進化の中間段階の実際的な証拠もありません。なぜなら創造の時、神はすべてのものを種類に従って造られたからです。それゆえ進化論は科学的ではありません。それは、創造主・神がおられないと言う前提から出てきます。それは不信仰です。